

# 2025（令和7）年さけます来遊状況（第4報：11/30現在）

## 4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 全国の年齢別来遊数では、3年魚（2022年級）、4年魚（2021年級）、5年魚（2020年級）が前年および平年を下回り、3年魚と4年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない
- 北海道太平洋側では3年魚が平年の22%、4年魚が平年の12%、北海道日本海側では3年魚が平年の24%、4年魚が平年の29%で、1994（平成6）年以降で最も少ない
- 本州太平洋側、本州日本海側とも3年魚、4年魚及び5年魚が1994（平成6）以降で最も少ない
- サケの平均重量は北海道で2.91kg、本州で2.71kgとなり、1994年以降で北海道は2番目に小さく、本州は最も小さい

\*1：平年とは、1994（平成6） - 2024（令和6）年の平均値

### ・サケの年齢組成 （全国）

全国の河川に回帰したサケの年齢組成の途中経過をもとに、11月30日現在における年齢別来遊数を推定したところ、年齢組成では、4年魚（2021年級）が全体の65%を占めて最も多く、次いで5年魚（2020年級）が26%を占めました。前年同期との比較では、3年魚は50%、4年魚は33%、5年魚は57%と前年を下回っています（図1）。平年同期との比較では、3年魚と4年魚は17%、5年魚は11%と下回っており、3年魚と4年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない状況です。

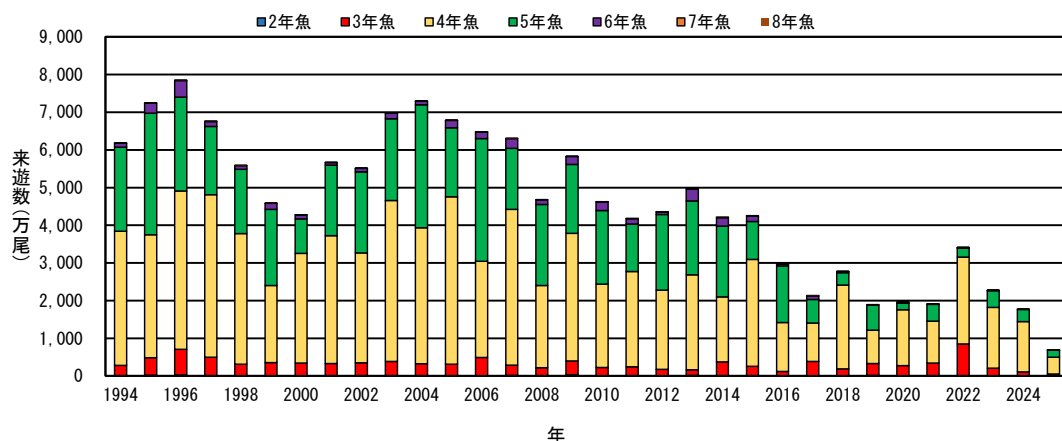


図1. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（全国）.

(北海道太平洋)

北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚（2021年級）が全体の70%を占めて最も多く、次いで5年魚（2020年級）が17%、3年魚（2022年級）が13%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の56%、平年同期の22%、4年魚は前年同期の38%、平年同期の12%、5年魚は前年同期の48%、平年同期の4%となっており、いずれも1994（平成6）年以降で最も少ない値となっています（図2）。

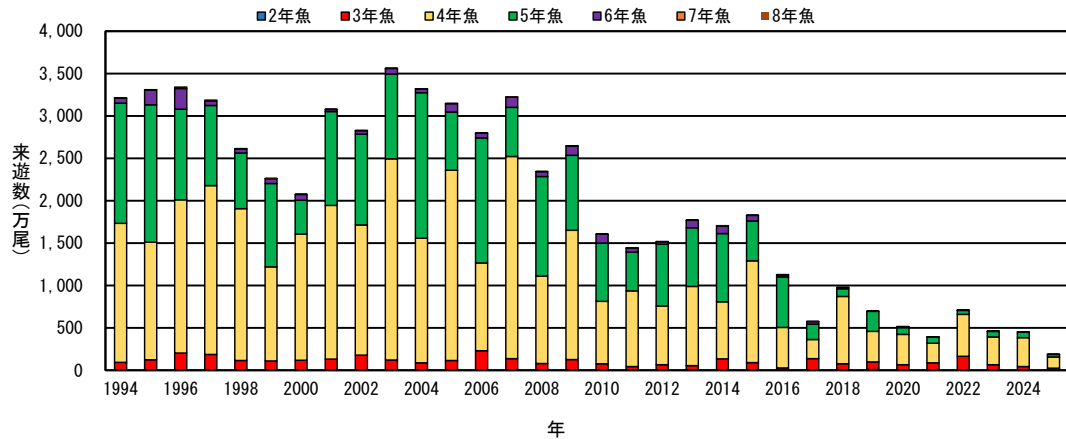


図2. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2021年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2020年級の平均の14%の水準となっています。また、今年の5年魚である2020年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2019年級の平均の23%の水準となっています（図3）。

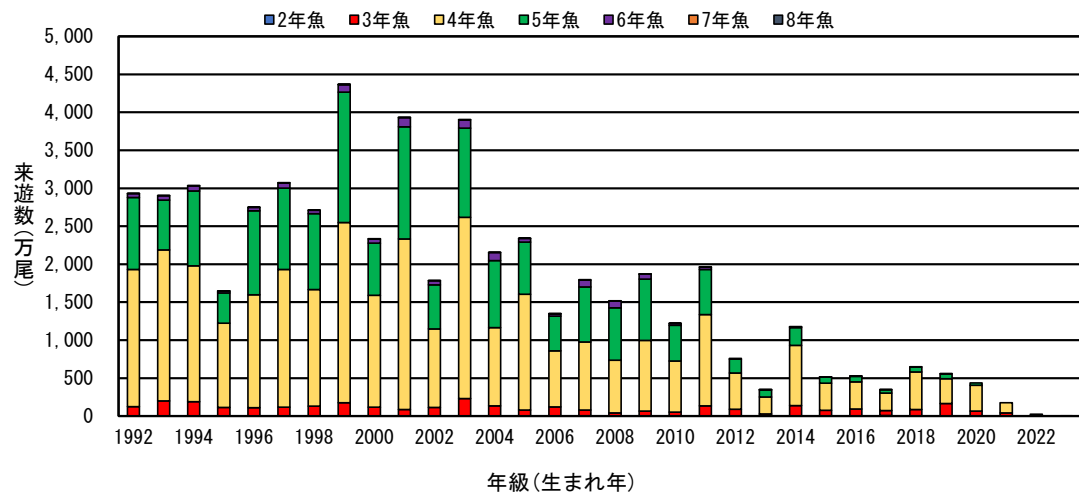


図3. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）.

(北海道日本海)

北海道日本海側（オホーツク海区および日本海区）では、4年魚（2021年級）が全体の63%を占めて最も多く、次いで5年魚（2020年級）が30%、3年魚（2022年級）が6%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の49%、平年同期の24%、4年魚は前年同期の32%、平年同期の29%、5年魚は前年同期の59%、平年同期の23%となっており、3年魚及び4年魚は1994（平成6）年以降で最も少ない値となっています（図4）。

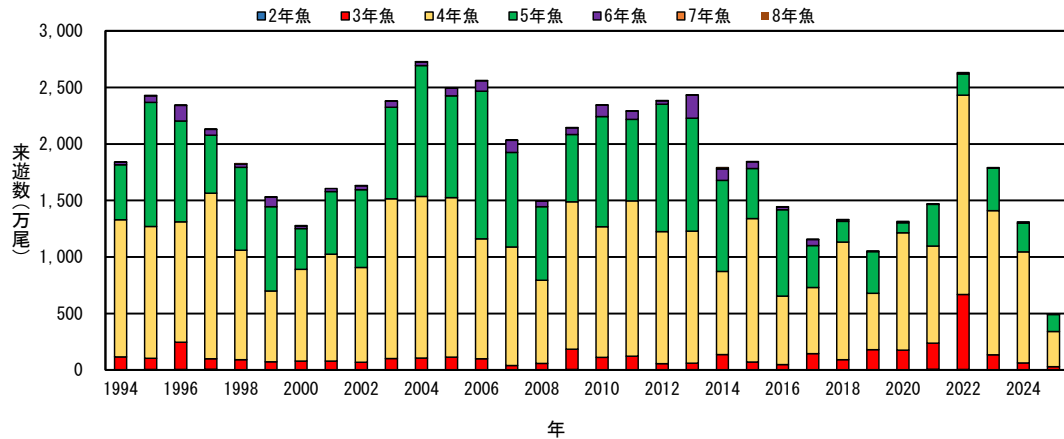


図4. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（北海道日本海）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2021年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2020年級の平均の31%の水準となっています。また、今年の5年魚である2020年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2019年級の平均の70%の水準となっています（図5）。

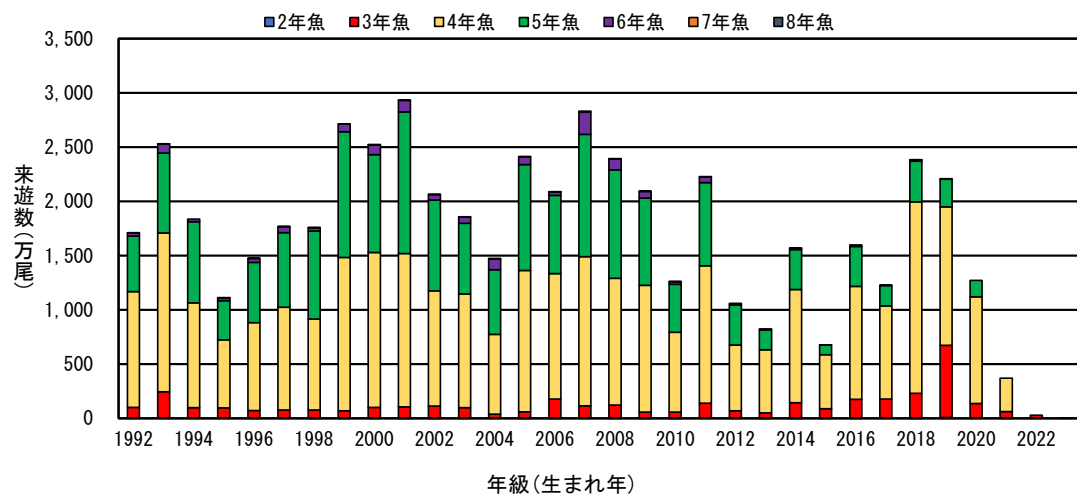


図5. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道日本海）.

(本州太平洋)

本州太平洋側では、4年魚(2021年級)が全体の80%を占めて最も多く、次いで3年魚(2022年級)が15%、5年魚(2020年級)が5%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の21%、平年同期の0.4%、4年魚は前年同期の53%、平年同期の0.4%、5年魚は前年同期の36%、平年同期の0.04%となっており、いずれも1994(平成6)年以降で最も少ない値となっています(図6aおよび図6b)。

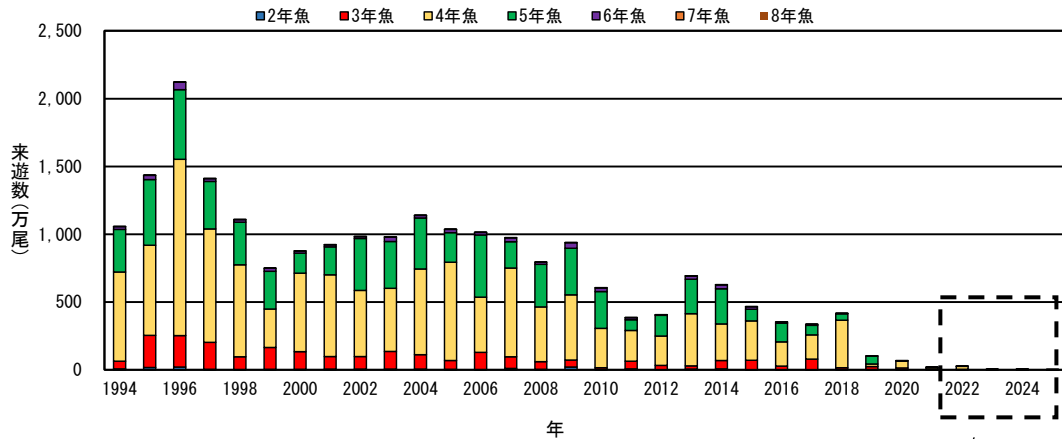


図 6a. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数(本州太平洋).

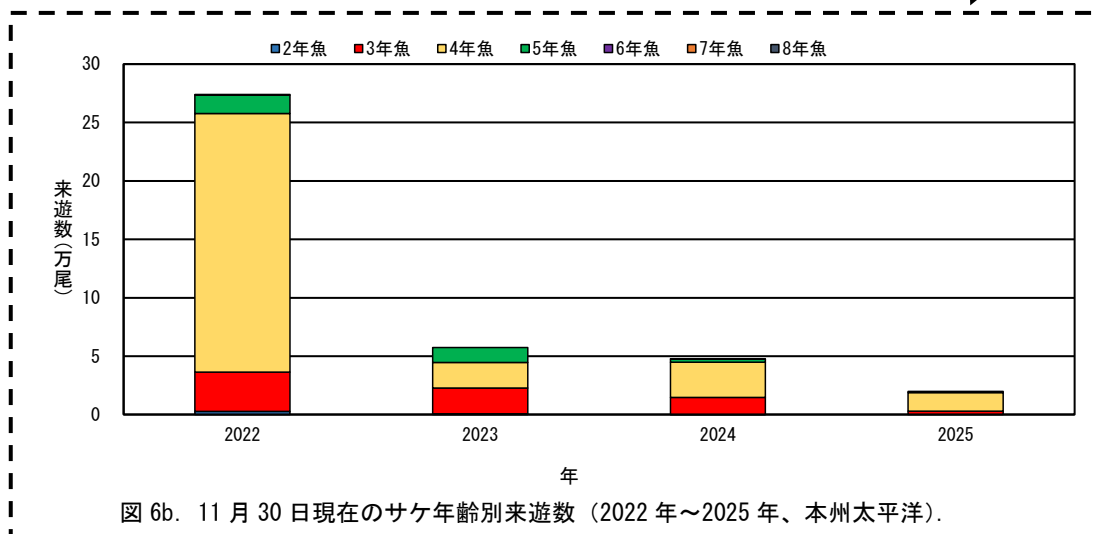


図 6b. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数(2022年~2025年、本州太平洋).

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2021年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2020年級の平均の0.7%の水準となっています。また、今年の5年魚である2020年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2019年級の平均の0.8%の水準となっています（図7aおよび図7b）。

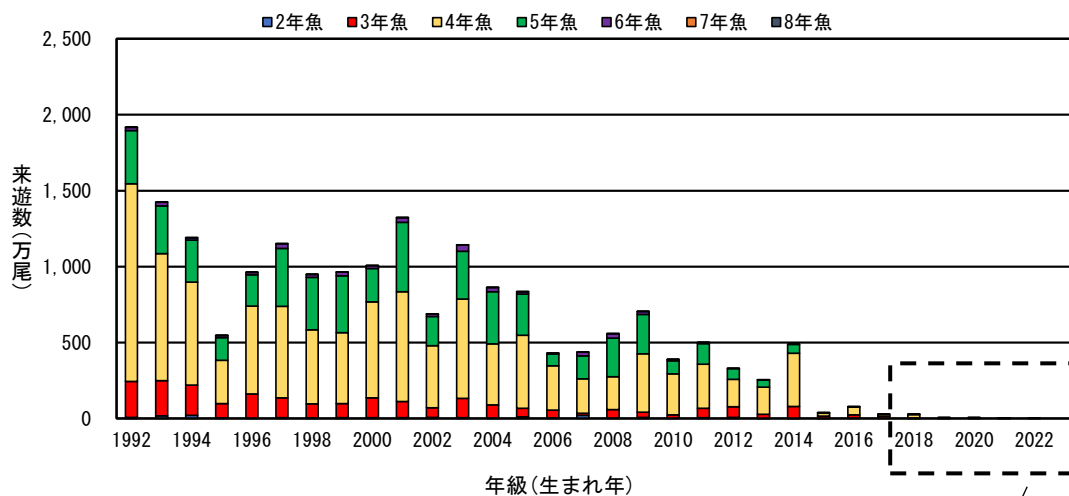


図7a. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州太平洋）.

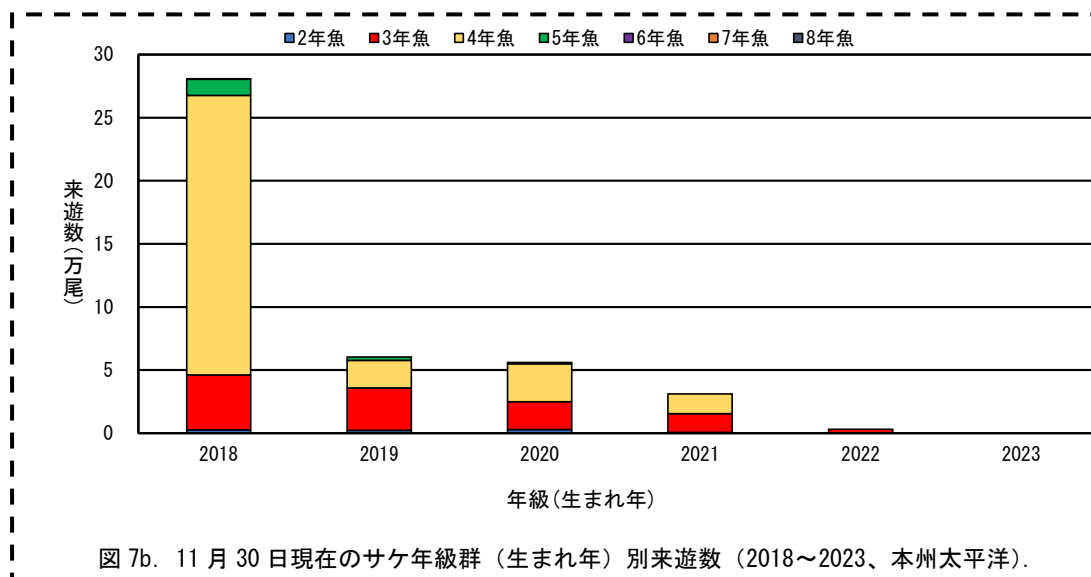


図7b. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（2018～2023、本州太平洋）.

(本州日本海)

本州日本海側では、4年魚（2021年級）が全体の85%を占めて最も多く、次いで5年魚（2020年級）が8%、3年魚（2022年級）が7%となっています。3年魚の来遊数は前年同期の9%、平年同期の2%、4年魚は前年同期の42%、平年同期の7%、5年魚は前年同期の74%、平年同期の3%となっており、いずれも1994（平成6）年以降で最も少ない値となっています（図8）。

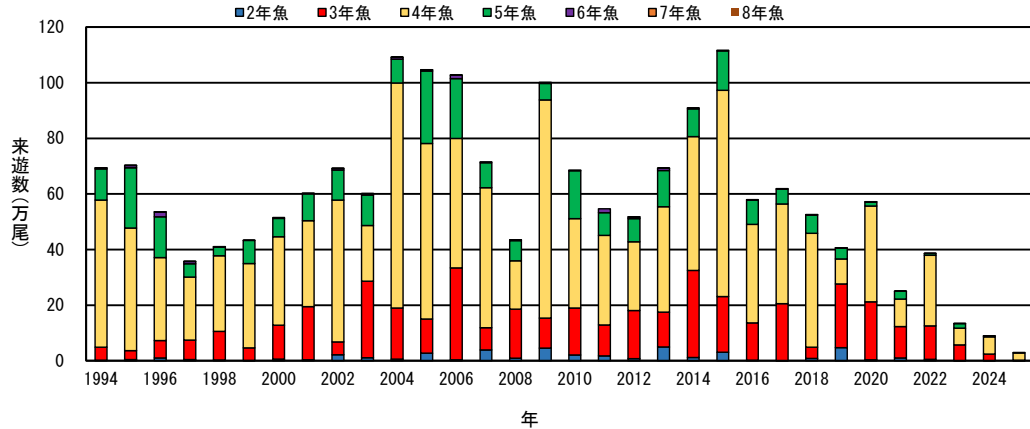


図8. 11月30日現在のサケ年齢別来遊数（本州日本海）.

年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2021年級を4年魚までの来遊数（2～4年魚の来遊数）で比べた場合、1992～2020年級の平均の10%の水準となっています。また、今年の5年魚である2020年級の5年魚までの来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992～2019年級の平均の21%の水準となっています（図9）。

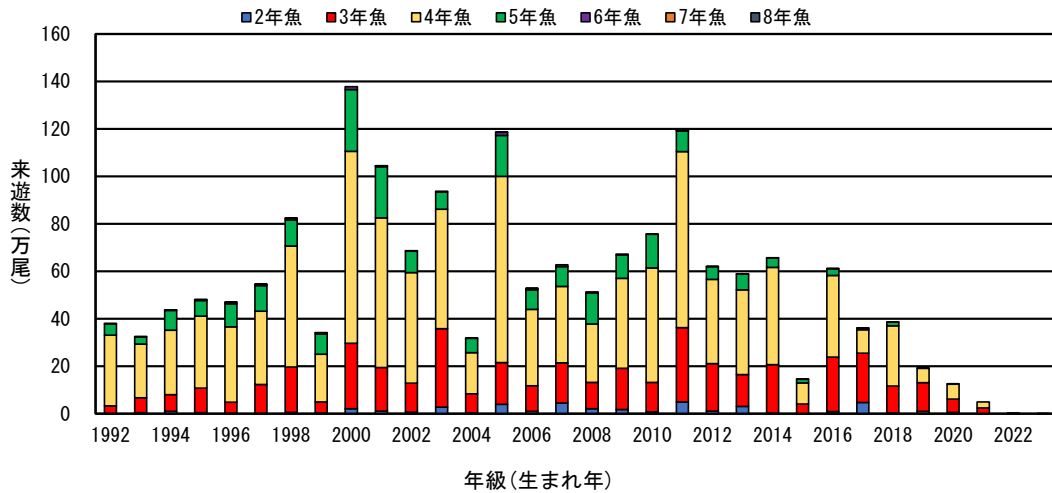


図9. 11月30日現在のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（本州日本海）.

・サケの体サイズ  
(北海道)

北海道における 11 月 30 日現在のサケ 1 尾当たりの平均重量 (漁獲数と漁獲重量から算出) は 2.91kg であり、前年同期の平均重量 2.96kg を下回り、1994 (平成 6) 年以降で 2 番目に小さい値となっています (図 10)。

また、北海道の主要河川に 11 月 30 日現在までに回帰したサケ 4 年魚の平均尾叉長は 63.9 cm であり、前年同期の平均尾叉長 64.8 cm よりも小さく、1994 (平成 6) 年以降で 3 番目に小さい値となっています (図 11)。

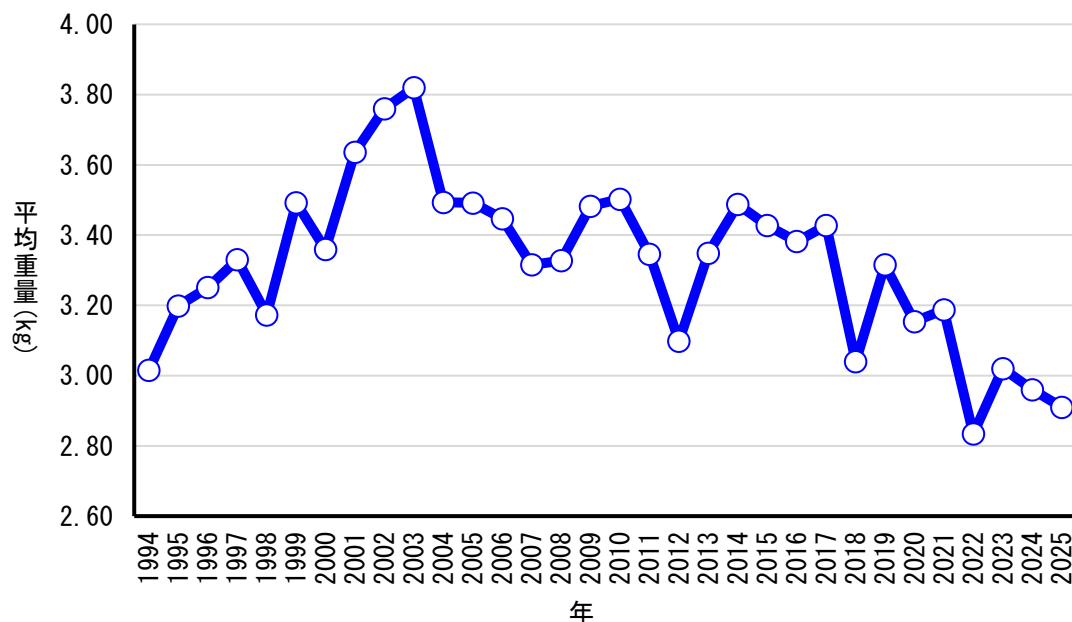


図 10. 11 月 30 日現在のサケ平均重量 (北海道).

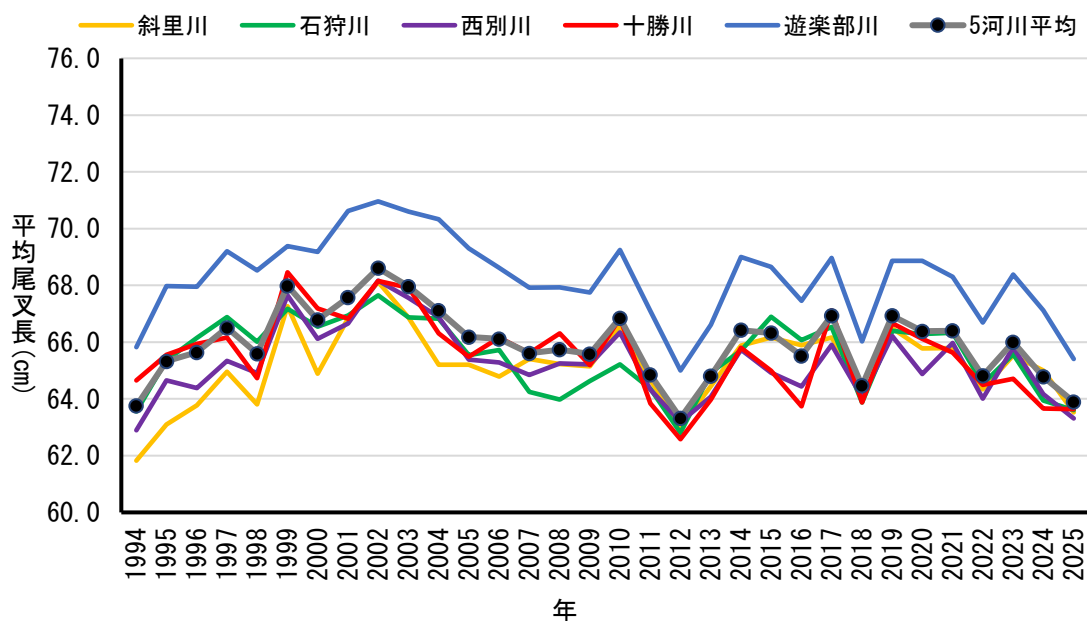


図 11. 11 月 30 日現在の北海道主要河川におけるサケ 4 年魚の平均尾叉長.

(本州)

本州における11月30日現在のサケ1尾当たりの平均重量(漁獲数と漁獲重量から算出)は2.71kgであり、前年同期の平均重量2.83kgを下回り、1994(平成6)年以降で最も小さい値となっています(図12)。

また、本州太平洋側の安家川、本州日本海側の月光川(牛渡川)に11月30日現在までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長はそれぞれ64.3cm、67.0cmであり、前年同期の平均尾叉長65.6cm、68.2cmと比較して両河川とも小さくなっています(図13)。

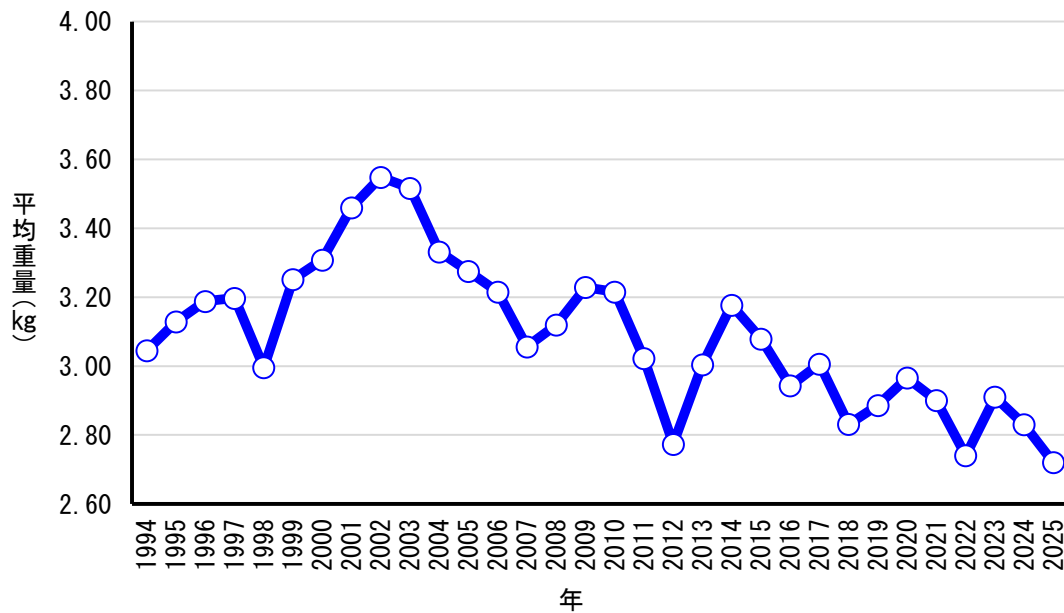


図12. 11月30日現在のサケ平均重量(本州)。

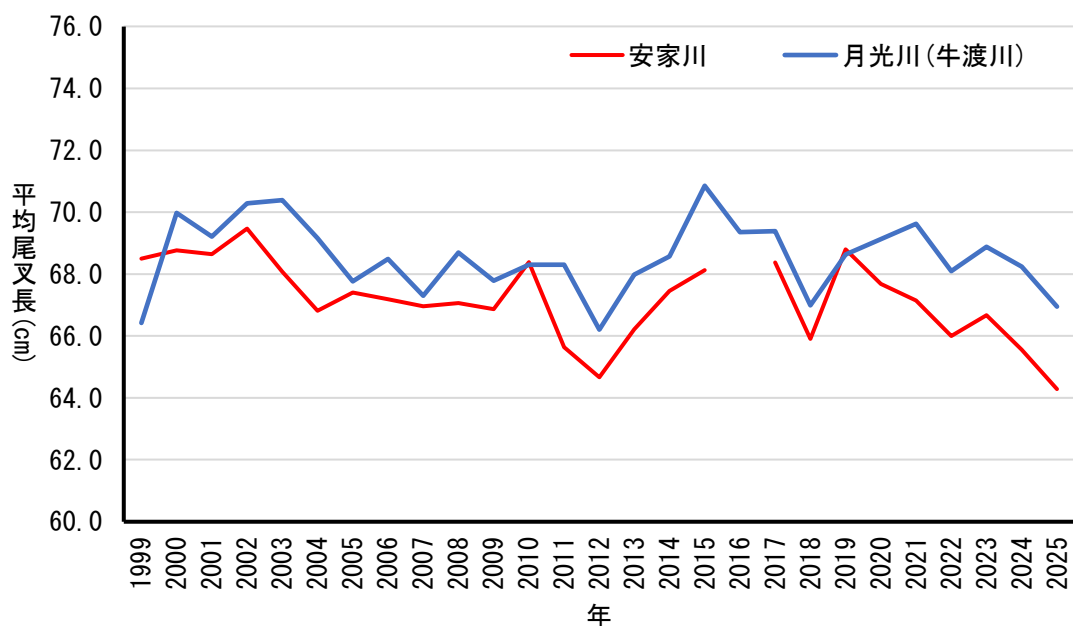


図13. 11月30日現在の本州2河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長。

※今年度から、本州太平洋側の掲載河川を津軽石川から安家川に変更しています(2016年のみデータなし)